

～こころに笑顔の種がふる～

はあとふる

2018 Vol.54



地域の皆さんに、
Warm Heart(心)
Cool Head(知識・判断)
Beautiful Hands(技術)で
ヘルスケアサービスを提供するための
コミュニケーション誌

ひざ前十字じん帯

(ACL:anterior cruciate ligament) は、関節を安定させるために重要なじん帯である。ひざを強打したり、激しくねじると損傷・断裂し、「ひざが抜ける」、「ひざがはずれる」、「ひざがずれる」などの症状を起こす。その ACL 再建手術が、大幅に増える夏。「ひざとたかう」しまだ病院の夏を追った。

ひざグループ

整形外科部長 富原 朋弘
整形外科医長 谷内 政俊
整形外科医長 瀧上 順誠

富原朋弘

運動器ケア しまだ病院 整形外科部長



“コンマ数ミリ”に込めた想い

「もううん私たち医師は、術前・術後のいづれも、外来診療では患者さんと真剣に話します。でもそれは「点」の医療。大事なのは、手術前に術後の動き方をリハーサルすること、術後のメンタルを支えること、回復・強化に向けてリハビリすること。それができてはじめて、治る。医師だけではなく、そこまで担えない。が、しまだ病院にはその専門家・療法士たちがいます。私たち医師にとっては、それこそが欠くことができない「治療」であり、「バックアップ」。医師自身も孤独にならずにすむこのシステムこそが、しまだ病院の最大の強みです」。

「なんだか難しい質問ばかりされたなあ…」。最後に富原はそつそつやき、続ける。アスリートとして復帰したいと願うなら、その要望には最大限応えますよ。でも僕は、もう一つ大事にしていることがある。仮に競技をやめても、その人にはその先の人生がある。女性なら出産もすれば、子育てもする。男性ならシャカリキに働かなきゃいけない時もある。競技後も何十年の日々を生きなきゃいけない。その時にも「きちんと使えるひざ」にしあげる、それも私の仕事ですから」。富原はそう締めくくって静かに笑い、また手術室へと急ぐ。

**手術は「点」に過ぎない。
手術前後の「線」の医療こそ大切。**

手術をすませ退院すれば終わり、でもない。復帰には8～10ヶ月あまりを要する。患者さんは、約1年に渡って不安と焦りを強いられる。その孤独にはどう向き合うのか？

「もううん私たち医師は、術前・術後のいづれも、外来診療では患者さんと真剣に話します。でもそれは「点」の医療。大事なのは、手術前に術後の動き方をリハーサルすること、術後のメンタルを支えること、回復・強化に向けてリハビリすること。それができてはじめて、治る。医師だけではなく、そこまで担えない。が、しまだ病院にはその専門家・療法士たちがいます。私たち医師にとっては、それこそが欠くことができない「治療」であり、「バックアップ」。医師自身も孤独にならずにすむこのシステムこそが、しまだ病院の最大の強みです」。

凛と張りつめた手術室には、執刀医・富原の指示が静かに飛ぶ。しまだ病院では、年間約160件以上のひざ前十字じん帯（ACL: anterior cruciate ligament）再建手術を手がけている。どうわけ夏はACL再建手術を望む患者さんが大幅に増える。富原は、その理由を語る。

「中学・高校のクラブ活動などでは、春から夏の大会に向けた練習が盛んになります。そこでいためるケースが多い。でも、いためたらすぐ手術とはいきません。炎症が治まる、腫れがない、ひざの曲げ伸ばしができるといった、手術できる状態になるまでには約1カ月間が必要です。もちろん2週間程度の入院も必要。夏休み期間をそのままに充てたい人が多いんです」。

「作り上げる手術」。富原は、ACL再建手術をそう表現する。精緻なガラス細工のように、コンマ数ミリの違いで仕上がりに差ができるという。「心がけているのは、どうすれば求める正確さに近づけるか。そのためには、一連の作業をシンプルに分解すること。その一つひとつを精緻に処置できるよう訓練すること。その標準化ができるなら、極端な話、私が執刀しなくてもいい（笑）」。

そんな富原にも、プレッシャーを感じることが目標じゃない。競技に戻ること、勝負に耐えるひざを取り戻したい、そこがゴール。高い要求に応えられる手術が必要なんですね。

**夏休みは、諦めたくない。
でも、競技は諦めたくない。**

60分に込める。その人への想い。



午前10時、 さまざまな人が「動き出す」

運動器ケアしまだ病院では、退院時間が午前10時、入院時間は基本的に午前11時からはじまる。病院のベッドの数は決まっており、入院される患者さんがいれば、退院される患者さんもいる。また、退院目標やリハビリの内容、医師の指示によっては、病棟を変わる患者さんもいる。このように、午前10時からの1時間は、さまざまな人が「動き出す」。

その背景で、同時に「動く」スペシャリストがいる。それが、看護補助者である。彼らの仕事は、多岐に渡る（下段QRコード参照）が、現場での環境整備も大切な仕事のひとつである。

それは朝から始動する。まず、ベッドの位置を記した紙を確認。日々、どのベッドの環境整備が必要なのか、関わるスタッフみんなで共有し、患者さんのスムーズな動き出しができるように、そして、これから入院生活を送られる患者さんにどう、安心できる場所になるよう、優先順位を決めて行動するように心がけている。

患者さんが退室後、忘れ物がないかをよく確認する。病棟が変わった患者さんについては、日々スタッフ間で情報を共有し、その人がその人らしく過ごしていただくために、病棟が変わっても、変わらぬ環境づくりに努めている。「動いて治す」の追求は、動いて整える私たちの仕事の中にも息づいている。

勝負は60分

勝負の1時間を見える 多職種ミーティング

週に2度、医師も含めた多職種が集結し、ベッド管理ミーティングが行われ、入退院や病棟が変わる患者さんの情報を共有している。このミーティングが日々の環境整備を支えている。



5 過に2回、医師、病棟の看護師、ソーシャルワーカー、療法士らが集まって、合同ミーティング。患者さんの症状や患者さんからの病室に対する要望、病室運営の方針などが共有される。



▲看護補助者のお仕事
公益社団法人 大阪府看護協会

3 4 1部屋にかけられる時間は7~8分程度。除、シーツなどのリネン交換、テーブルなどの消毒が手早く進められる。仕上がりベッドの位置を記した紙を確認して次の部屋へ。

どんなときでも、
笑顔とwarm heart

看護補助者として、大切にしている想いを聞いてみた。どんなときでも笑顔で接すること。患者さんの言葉に耳を傾け、想いを聴くこと。また自分で判断できないことは、きちんと看護師に相談すること。そして言葉遣いや対応に、丁寧さを追求していることだと教えてくれた。「笑顔で接し、人を思いやれて探求心がある。何より、やりたい!という気持ちを持っている方と一緒に働くことができれば、こちらも楽しいですね!」と笑顔いっぱいに話してくれた。

手術する患者さんが増えるしまだ病院の夏。
入退院する患者さんがあわただしく入れ替わる病棟は、
分単位で忙しい。
時間とたたかう病棟スタッフたちの、「動く60分」を追った。



1 午前10時、
さまざまな人が「動き出す」

2



1 2 その日退院される患者さんと新たに入院される患者さん、さらには3階急性期病棟から4階地域包括病棟へと部屋を変わる患者さん。毎朝、これらの患者さんの新たな部屋割りが編成され、その指示書に基づいて各部屋に環境整備が始まる。

おじいちゃんやおばあちゃんたちが
作ってくれた、
やさしくてあつたかい、このまち。
そのまま残したい、伝えたい。

高鷺南地区 × 在宅介護支援センター悠久亭

<地域に根ざしたヘルスケアを考える>

このまちが好きやねんつ。

近鉄南大阪線・高鷺駅前では、半年に一度のペースで「たかわしえキフェス！」が開かれ、賑わいを見せてている。地元の人たちによる地元の人のためのお祭り、それが人気の理由だ。このお祭りを企画・運営する中心メンバーに、その思いを語っていただいた。



お祭りの思い出には、したくない。
そんなふるさとには、したくない。

江田 江田さんは初回から参加してくれています。それでも最初は「介護相談ブース」を出しただけですけど、いやいや「不気味に積極的」やった(笑)。第1回の会合で大筋決まって、後は世話人がまとめて…解散。なのになぜか江田さんは残った。江田 それじゃ、不審者ですよ(笑)。地域どつながる、それが僕の仕事。でも、その活動をはあとふるのグループの内外にアピールできなくて、焦ってたかも(笑)。

岡 2回目以降は、病院から救護班もだしてきましたよね。浅野 わばあちゃんが坂で転んでケガしたこともある。あの時は専門家が居てくれてホントに助かったわ。藤村 認知症介護の講座や、事業所の方が徘徊者役になってみんなで見つける「徘徊者保護訓練」もしてくれた。

田仲 そもそもお祭りも、実施する

ことが目的じゃない。子どもや大人、お年寄りが集まって、声かけて顔見知りになって、「つなぐ」ということが目的。

岡 一人暮らしの高齢者が増えたので、それはホントに大事だと思つわ。

浅野 うちの店では、おかげの配達

している。だから、あの家のおばあちゃんはいつもの部屋にいる、そんな情報まで自然と貯まってる。

江田 在宅介護や看護には、そ

このまちを、ありがとう。
感謝をこめて、高齢者を見守りたい。

江田 江田さんは初回から参加してくれています。

浅野 そうですね。でも最初は「介護相談ブース」を出しただけですけど、

田仲 いやいや「不気味に積極的」やった(笑)。第1回の会合で大筋決まって、後は世話人がまとめて…解

散。なのになぜか江田さんは残った。

江田 それじゃ、不審者ですよ(笑)。

地域どつながる、それが僕の仕事。

でも、その活動をはあとふるのグループの内外にアピールできなくて、焦ってたかも(笑)。

岡 2回目以降は、病院から救護班もだしてきましたよね。

浅野 わばあちゃんが坂で転んでケ

ガしたこともあった。あの時は専門

家が居てくれてホントに助かったわ。

藤村 認知症介護の講座や、事業

所の方が徘徊者役になってみんな

で見つける「徘徊者保護訓練」も

してくれた。

田仲 そもそもお祭りも、実施する

ことが目的じゃない。子どもや大人、

お年寄りが集まって、声かけて顔見

知りになつて、「つなぐ」ということが目的。

岡 一人暮らしの高齢者が増えたの

で、それはホントに大事だと思つわ。

浅野 うちの店では、おかげの配達

している。だから、あの家のおば

あちゃんはいつもの部屋にいる、そ

んな情報まで自然と貯まってる。

江田 在宅介護や看護には、そ



浅野 う情報こそが大切なんです。どう頑張っても、在宅介護に携わる専門職だけではそんな暮らしへに根を張った情報はつかめない。

田仲 災害時の緊急連絡や避難誘導などの観点からも大事やしね。

岡 ふのことを作つてくれた先輩を感謝の気持ちで見守つてあげたい!

藤村 地域とのつながり方って、ひとつでなくていいと思うんです。うちは整骨院で、浅野さんはコンビニ、芥川さんは電器店。業種が違えばメリットも変わる。でも違うからこそ、それぞれの角度で地域を見るのができると思うんです。

浅野 それぞれの Win-Win を求めて、地域どつながる。それが幾重にも重なれば、密度の高い関係が生まれ、まちがネットワーク化される。この会が、その原動力になればいいんだだけだね。



たかわしえキフェス実行委員会

高鷺中央商店会の浅野さん、芥川さんを中心に発足、現在 13 名で活動中。地域の有志と一緒に企画・運営する「たかわしえキフェス！」は、2017 年夏に第 1 回を開催（来場者 3000 人）。その後、第 2 回（2018 年春開催 / 来場者数 5000 人）と回を追うごとに盛況に。祭りだけでなく、お年寄りを見守る地域／

福祉活動などにも積極的に参加している。

【写真中央】左から、江田裕匡（はあとふるグループ）、浅野寿雄さん、藤村雄也さん、田仲素一さん、藤村龍吾さん、岡恵子さん。

【表紙の医師】富原 朋弘 Tomohiro Tomihara

平成8年 しまだ病院入職。内視鏡を使ったひざの手術をいち早く取り組み、

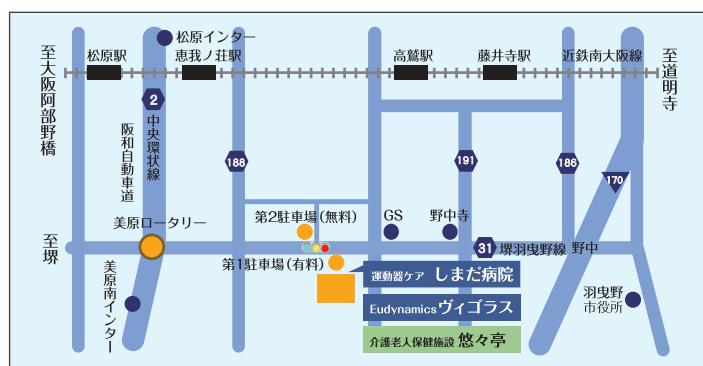
現在、ひざ前十字じん帯断裂や半月板損傷などのひざの専門医として、年間約150件の手術を手がける。

<経歴>平成6年高知医科大学医学部卒 <専門>ひざスポーツ傷害 <専門医>日本整形外科学会 整形外科専門医 認定医

<日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会>第1回関節鏡技術認定(膝) <日本臨床スポーツ医学会>代議員

その人がその人らしく自分の人生を全うすることを

Warm Heart -心- Cool Head -知識・判断- Beautiful Hands -技術- で支援します



はあとふるグループ

医療法人はあとふる

- 運動器ケア しまだ病院 Tel.072-953-1001 / Fax.072-953-1552
- Eudynamics ヴィゴラス Tel.072-953-1007 / Fax.072-953-1007
- 介護老人保健施設 悠々亭 Tel.072-953-1002 / Fax.072-953-1911
- 通所リハビリテーション Tel.072-953-0045 / Fax.072-953-1911
- 在宅介護支援センター 悠々亭 Tel.072-953-1003 / Fax.072-953-1332
- 介護サービスセンター ゆうゆう亭 Tel.072-953-5514 / Fax.072-953-1332
- 訪問看護ステーション ハートパークはびきの Tel.072-953-1004 / Fax.072-953-0022
〒583-0875 大阪府羽曳野市櫻山100-1
- ヘルパーステーション 悠々亭 Tel.072-953-1062 / Fax.072-953-0022
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院

- 通所リハビリテーション Tel.072-999-0726 / Fax.072-923-0186
- 訪問リハビリテーション Tel.072-999-0725 / Fax.072-923-0180
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1

介護サービスセンター はあとふる

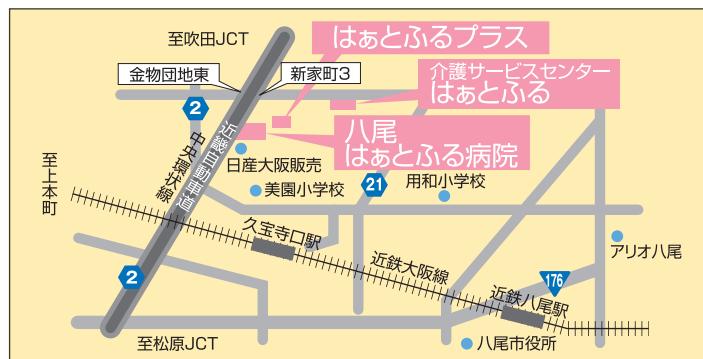
- Tel.072-999-8126 / Fax.072-999-6118
〒581-0815 大阪府八尾市宮町5-6-22

通所介護 はあとふるプラス

- Tel.072-920-7216 / Fax.072-920-7256
〒581-0815 大阪府八尾市宮町6-6-16

社会福祉法人はあとふる

- 通所介護 ゆうゆうハウス Tel.072-931-1616 / Fax.072-931-1128
- サービス付高齢者向け住宅 ゆうゆうハウス Tel.072-931-1616 / Fax.072-931-1128
〒583-0875 大阪府羽曳野市櫻山96-10



はあとふる

vol.54<2018年9月>

●年4回発行 ●発行・編集／広報戦略室 〒583-0875 大阪府羽曳野市櫻山100-1 ☎072-953-1001(代表)

●制作協力／株式会社エディウス

ホームページをぜひご覧ください。 <http://www.heartful-health.or.jp/>

はあとふるグループ

